

第7回大東市庁舎整備に関する推進本部会議 議事要旨

日時：令和元年10月30日（水）午後12時45分～13時45分

場所：委員会室

出席：西辻副市長、亀岡教育長、松本上下水道事業管理者、田中理事、
大石危機管理監、北本戦略企画部長、東政策推進部長、品川総務部長、
北田市民生活部長、池谷人権政策監兼人権室長、青木福祉・子ども部長、
今出街づくり部長、延田上下水道局長、澤田学校教育部長、
岡本学校教育部指導監、南田生涯学習部長、
中村選挙管理委員会・公平委員会・監査委員事務局長、木村議会事務局長、
（事務局）
田川政策推進部総括次長兼産業振興課長、田中新庁舎整備課長、
野田上席主査、武内上席主査、中川主査、川崎

○次第1 庁舎整備の今後の進め方について

（副市長）

みなさん、承知のとおり、去る9月定例会議に、この推進本部会議でも議論を行ってきた「大東市新庁舎整備基本計画（案）」を議案として上程したが、議会からは否決という判断をいただいた。本日の会議では、これまでの取組・検討状況を踏まえ、今後の方向性や進め方について議論を行いたい。なお、議論に入る前に、事務局から今回の結果を受けて、総括的に振り返ってもらう。

（事務局）

この事業は、平成20年に現庁舎に耐震性がないということが判明したところから始まっている。議会の方でも平成25年に特別委員会を設置いただき、この推進本部会議についても平成29年から開催させていただき、本日で7回目となる。平成30年の3月に新庁舎整備基本計画の素案を作成し、その後は住民説明会や住民アンケート、パブリックコメント等で素案の説明や意見収集を行ってきた。これまでいただいた素案における課題点については修正作業を続け、この9月議会に計画案を議案として議会に上程させていただいたが、結果についてはご承知のとおり否決という判断をいただいた。

議会で否決された理由については、反対討論された議員については、浸水、高層化、

渋滞、PFI手法の課題、複合化による活性化の根拠がないといったものがあった。また、それまでの特別委員会や街づくり委員会においては、浸水想定区域に庁舎を建設する事への検討、概算費用、位置条例の時期、候補地の比較案がないといった意見があった。加えて、課内で考察した内容としては、これまで市民に対する情報発信の機会や意見聴取の機会が本当に充分であったのかというところ。今後進めて行く中では、しっかり考えて行くべきところと認識している。また、庁内においても、職員との議論をしっかりすべきであった。特にこの推進本部会議メンバーには日頃から情報共有を行い議論していく必要性を感じている。

庁舎の耐震不足については、市民の皆さまにご迷惑をかけているという現実があるので、早急に対策を講じて行かなければならない。みなさんのご協力をお願いしたい。この9月議会の結果を真摯に受け止め、今後議論を進めて行きたい。

(副市長)

事務局からの話を受けて、率直なご意見をいただきたい。

(戦略企画部長)

否決された理由は、事務局からいくつかあったが、私を感じる所は市民との双方向性の議論が欠如していたのではないかとこのところ。こちらの案を説明する、こちらの考えをお伝えすることに傾注してきたが、市民の意見を計画に反映させていくというところが欠如していたと感じる。今後の進め方については、市民からの意見をどう反映させていくかというところに傾注していただきたい。

(危機管理監)

計画策定までの経過があまり知られていないように思う。もう少しオープンにした方が意見の集約が出来ると思う。

(政策推進部長)

平成20年に行われた耐震診断から10年以上経っており、今の技術革新であれば、ひょっとしたら当時と違う判断になるかも知れない。これまでの推進本部会議やパブリックコメントの結果、特別委員会の中での議論などをもう一度ひも解いていく必要がある。違う角度から見ることで違う結果が出てくることも考えられる。

将来から見た庁舎像を議論することで自ずと場所は決まってくると考える。今後はそういう議論をしていきたい。

(総務部長)

庁舎については、老朽化が進んでおり耐震性もないということから新たな庁舎整備に

関する取組みをしっかりと形になるよう今後も努力が必要であるし、進め方については反省を踏まえ、しっかりと考え直す必要がある。

(市民生活部長)

広報誌に移転場所の記事が掲載され、場所はすでに決まっていると誤解されたことが、住民から理解を得られなかった理由ではないか。

(人権政策監兼人権室長)

情報発信の回数、市民の声を聞く機会が少なかったのではないかと感じる。新しいことをやっていくのであれば、これまでの2倍3倍、それ以上の情報発信の回数、市民の声を聞く機会を設ける必要がある。このあたりのことを踏まえながら、新しく進めて行けば、必ずいいものが出来ると思う。

(福祉・子ども部長)

これまできちんと手順を踏んで進められてきたと思っている。議会がどういう理由で反対されたのかという事についても、もう少ししっかりと認識する必要があると考える。

(街づくり部長)

これまで、この事業には長く関わり色々意見させてもらった。庁舎整備というのは市にとって非常に大事なものと考えている。庁内においても様々な意見を聞いて、協力を得ながら慎重に進めて行く必要がある。

(上下水道局長)

これまで議員や職員が不安に思っていた部分について、対応策がしっかりと説明出来ていなかったと感じる。例えば災害対策については庁舎の軸となる部分。建物がどれくらい浸水するか。1m浸水したらどうやって職員は参集するのか。あるいはなぜあの場所が候補地になったのかなどについてももう少し丁寧に説明するべきであったのではないか。

(学校教育部長)

否決については、手続きといったことではなく狭い消防跡地への移転が市民の理解を得られなかったということだと私は考えている。

(学校教育部指導監)

市民の双方向性という言葉があったが、市民ヒアリングや関係団体ヒアリングなどは大変大事なことでもあるし難しいことでもある。例は多くはないかもしれないが、他市

の庁舎整備の好事例等を参考にしていけたらと思う。これを契機に建設的な議論を進めていけたらと思う。

(生涯学習部長)

市民や団体に意見を聞くタイミングと内容。決まったことに対する意見を頂くのか、選択肢があって、メリットとデメリットをはっきりさせてから意見を頂き相談しながら決めて行くのか。後者の手順があった方がよかったのではないかと考える。

(選挙管理委員会・公平委員会・監査委員事務局長)

市民への説明がうまく伝えられていなかったのではないと思う。特に、候補地については、1/3が自分の土地であるが、残りの2/3の土地は等価交換という手法をとろうとしていた。この点について、市民への説明責任が果たされていなかったと感じる。また、最終的に土地購入の方向へ進んだということがさらに分かりにくかった。今回、この進め方の案を読ませていただいて市民の声を聞く機会を大きく持って発展的に進めていこうという話であれば、これは大いに賛成である。

(議会事務局長)

市民の中には、場所は最初から決まっている印象を持たれている方が多かったのではないか。また、候補地は移転するには土地が狭いと感じる人が多かったと考える。今回の結果については、もっと思いを至らせていただきたい。

(理事)

50年100年でのスパンで考えた時に、手法と場所とも最適なものであったと私自身は思っていた。ただ、この結果を見ると、自分の感覚と市民の皆さまとの感覚がずれていた。そこは反省しなければいけない点だと考える。であるから、これから議論に入るに当たり、新しく気持ちを入れ替えて議論に参加して行きたいと考えている。

(副市長)

庁舎整備については、政策推進部だけでは出来るものではない。全庁一体となって進めて行く事業である。引き続き部長のご協力をお願いしたい。

それでは本日の議題に入る。

○次第1 庁舎整備の今後の進め方について

《資料に沿って説明。以下、質疑応答》

(福祉・子ども部長)

4月の末日に方針案策定と書かれている部分。ちょっと時間的に早いのではないか。

(事務局)

スケジュールについては、耐震性の問題からゆっくり進めることが出来ない点を考え、一番最短をお示ししている。今後プロジェクトチームや審議会を開催するにあたって、色々なご意見をいただいて、その様子で基本方針案をこの時期に策定するのは難しいとなれば、ここは少しずれて行く想定している。必ずこの時期にという考えはない。

(議会事務局長)

資料1の左下に進め方というのがあるが、この一番上にある基本方針案の策定がこの4月末ということであれば、議論や候補地の絞り込み、基本計画はもっと後ということによいか。基本方針案は資料の上書いているような考え方という事であれば、議会の時期は関係がないのでこの日程で問題ない考える。

(生涯学習部長)

このスケジュールに異論はない。ただ、基本方針案を作ってから基本計画の策定までの期間が大切になると考える。あと、審議会とワークショップで答申やとりまとめと記載があるが何をとりまとめるのか。どこまでのことをとりまとめるのか。

(事務局)

実は、課内でもここはまとまっていないところ。審議会とワークショップ、庁内の推進本部もそうであるが、お話頂いた内容や考え方によっては、答申で何をもらうのか変わってくると考えている。基本方針を中心に審議会では答申を頂こうと思っているが、そうすると基本方針案に関する答申を頂いた段階で、この審議会が終わってしまう。先ほど生涯学習部長がおっしゃられた通り、基本方針から基本計画までの間が大事なところなので、この審議会については、スケジュール上は3回で答申となっているがその後も続いていくような形になることも考えている。ただ、審議会を招集させていただく際は、どういった内容について諮問するのかをお示しすることになるので、そこは早急に考えて行きたい。

(事務局)

少しだけ付け加えさせていただくと、これまでの様に、どこの場所に庁舎を建てるかという話ではなく、将来の大東市の街の在り方、30年50年後の街のイメージを共有

しながら、そんな時にどんな庁舎が有ったらよいかという話をし尽したいと考えている。その結果として、庁舎にとって最適な場所が導かれていくのではないか。審議会の最終的な結論にいくつかの候補地がでてくるのか、将来の街の在り方で終わってしまうのかは、正直やってみないとわからない。進めながら導いて行きたい。

(議会事務局長)

審議会、ワークショップの構成メンバーもまだ何も決まっていない。庁舎の建て替えが一番もめるのは場所の問題。場所以外でもめることはほぼない。審議会、ワークショップで場所を決めて行くのか。

(総務部長)

当然、5月6日以降の予定なんて今わからないので、大まかなスケジュールでよいと思っている。審議会、ワークショップはこれでいいと思うが、下にある市民ヒアリング、団体ヒアリングについては、どこの場でどう活かすのかはこのスケジュールでは見えにくい。どこかの時点で意見を吸い上げ議論するのかをスケジュールに書き込めば、市民の意見を反映していることが目に見えてわかるのではないか。見え方、表現を工夫したほうがよい。

(街づくり部長)

中間答申や基本方針に何を出すのかがよくわからない。30年50年後と将来の市の在り方、エリアを考えていくと自ずと場所の議論が出てくる。あえて場所を出さずに基本方針を出すとなると何を議論していくのか私にはわからない。PTやワークショップをする時にも、その辺りを明確にしておかないと意見の出しようがないし吸い上げようがない。場所の議論なしで中間答申をどうもらうのかしつかり詰めておく必要がある。

(事務局)

基本方針には、おそらく防災の観点などの文言が入ってくると考えられるが、将来的に人口が減ってくる中で、今と同じ規模の庁舎があるのか。庁舎の中で活用されなくなった空間をどう活用できるか。フレキシブルな庁舎といったものを、大東市の将来を見据えた基本方針というところで作って行きたいと考えている。

(選挙管理委員会・公平委員会・監査委員事務局長)

先日、講演にいった際に、ハウレンソウ(報告・連絡・相談)だけでなく提案が大切であるという講義を受けた。何か回答をもらおうと思っているときは提案が必要になると思う。何を決めるかということはどうにかして答えを出してくださいではなく、今のような形で新庁舎整備課である程度の提案をすることでイメージが湧くのではないか。

場所が決まっていなくてどんな庁舎を建てるかと言われてもイメージが全く湧いてこない。一般市民の方ならなおさら湧かないと思う。こういうイメージの中でというものを示した方がよい。個人的な意見ではアクティブスクウェア大東の場所はすごくよい。あそこに大東市の本庁舎・消防署を持ってこれば、防災拠点として盤石となると考える。浸水地域で言っても1m弱。四條畷警察もあって、大東四條畷消防組合にとっては、大東市と四條畷市の中心部。このような形でイメージが付きやすい。場所が決まっていなくて、こういったイメージを持っていいのかわからないのでそういう提案をしていただきたい。

(議会事務局長)

私も1つだけ提案させていただきたい。この基本方針案の中に、庁舎整備に係る予算総額の上限をいれてはどうか。いくらのお金をかけることができるのか、長期財政見通しから、建設費として最初にかけることが出来る額、庁舎のランニングコストに毎年かけることが出来る額を出していただきたい。大東市としての長期ビジョンを持っておかないといくらでも話が膨らんでしまうことになる。例えば、庁舎移転で最大50億なら50億以内で候補地を探して庁舎の絵を描くことができる。そういう視点を入れていただきたい。議員の視察で庁舎整備もいろいろ見学に行くが、おどろくほど低廉に整備されている市がある。見た目は立派であるが、内装の部材を安くするなどしている庁舎もあった。まずお金で方針を一つ縛るということも方法論としてあるのではないか。

(政策推進部長)

基本方針案に数字的なことを書き込むかということはこれから話をしていくが、基本方針はあくまで前段議論である。例えば、昔は市民にとって市役所庁舎はシンボルとなるものであったように、庁舎にシンボリックな建物を望む声がこの審議会やワークショップの中で大きく出てくるのか、簡素なものを望む声が多いのかなど、議論の中で見定めて基本方針案を作っていくとしている。とはいえ、審議会の最終答申に場所を書き込むというそこまでの責を審議会に負わせることはいかがなものかと思っている。例えば最終3カ所ぐらい。この3つが選ばれる過程の中で、防災拠点を一番に考えて行くべきとなれば、自ずと場所は決まってくる。今までの計画案はあれもこれもと入れ込んだが、もっとシンプルに必要な機能や場所の議論を収められるようにしたい。その辺を前段でしっかりお話ししたいと考えている。

(生涯学習部長)

審議会の答申をもっと先延ばしにして、候補地がいくつか出た段階でメリット・デメリットといった評価をかけたうえで、それを答申とするのも一つではないか。

(政策推進部長)

基本計画の中に、3カ所ぐらいを基本計画の中に入れ込んで、市民と議論をして決めていくというやり方はよくある。基本計画の造りを最終どうしていくかということもこれからの議論の中で説明して行きたいと思っている。

(副市長)

他に意見はないか。

庁舎に関しては各部長、全職員、市民なりが注目している事業。これまでの事を反省しつつ、頂いたたくさんの提案を加味しながら進めて頂きたいと思っている。

それでは本日の会議を終了する。